

会議録

1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議専門部会（第3回）

2 開催日時

令和2年2月19日（水）午前9時58分から午前11時35分まで

3 開催場所

犬山市役所5階 503会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 構成員 服部敦、靱山貢、奥村好樹、片山義博
- (2) 執行機関 鈴木経営部長、新原観光交流課長、小池観光交流課課長補佐、
大谷観光交流課統括主査、櫻井観光交流課主事補、井出企画広報課長、
安藤企画広報課統括主査、倉知企画広報課主査補、中柴企画広報課主事
- (3) オブザーバー（観光戦略会議委員） 石田芳弘、久世高裕

5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 議題
 - ①第4回犬山市観光まちづくり会議について
 - ②実施した調査の結果概要について
 - ③観光戦略の骨子（案）について
- (3) その他

6 傍聴人

1名

7 内容

事務局

おはようございます。定刻前ではございますが、委員の皆様お揃いですので、ただいまより第3回犬山市観光戦略会議専門部会を始めさせていただきます。

本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進め、長くても2時間程度で終了させていただきたいと考えております。まず初めに、服部部会長よりご挨拶をお願いいたします。

服部部会長

おはようございます。本日は3回目の専門部会ということで、3月に予定されております親会議前の最後でございます。専門部会としてある程度、今年度の議論の成果をまとめていくこととなりますので、審議にご協力をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。本日は総数5名のうち、梅川委員が欠席となっておりますが、4名の出席をいただいております。委員の過半数の出席がありますので、会議は成立していることをご報告させていただきます。なお、この会議は公開とさせていただきます。傍聴人の方は会議中お静かにお願いいたします。撮影は会議の進行に支障をきたさないよう自席からの撮影のみ、録音につきましては個人のメモとしての利用に限りお認めし、切り取っての公開はやめていただくという取り扱いになっています。会議の内容につきましては、後日資料と会議録をホームページで公開することになっておりますので予めご了承ください。会議録につきましては、2人の委員が署名することとなっております。名簿順ではございますが、梅川委員が欠席ですので、本日の会議録への署名は、榎山委員と奥村委員をお願いいたします。

それでは議題に移る前に、事前に配布させていただきました資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

では、以降の進行は会議規則に従い、服部部会長よろしくお願いいたします。

服部部会長

では、次第をご覧くださいまして、議事は本日3つございます。一つ目に、第4回犬山市観光まちづくり会議について、報告がございますので、事務局の方から説明をお願いします。

事務局

(資料に沿って説明)

服部部会長

ありがとうございます。今年度はこの分科会までですね。

事務局

そうなります。

服部部会長 ただいま報告がありました、第4回の会議報告についてご質問、また今後の方向性についてご意見等ありましたらよろしく願いいたします。

朧山委員 ちょっと勉強不足なのですが、通常商店街というと、商店街組合がありますが、あそこは全くないのですか。

事務局 かつてはあったそうですが、今はありません。例えば、街路灯を維持するとか、商店街組合としての目的の一つとしてあったみたいです。まちづくり団体は幾つかあってそれぞれ活発にやられているのですが、事業者の組合というのはいないです。普通、どこでもお店が連たんとすると組合を作って、何か盛り上げていこうという動きがあり、犬山駅の駅前通りにも発展会がありますが、本町通りには無い状態です。また、この会議で話を聞くと、隣のお店の人のこともよくわからないとか、話したことがないとか、住民の方ともどう接していいのかわからないという意見もあり、これでは課題改善の手前の問題ですので、何とか形を作っていきたいというところがございます。

服部部会長 この話は本町通りに限らずですか。

事務局 すごく難しく、どこまでの発展会なのかというのは、これからの議論の中でカテゴライズというか、線引きしていくことになるのかなと思います。

服部部会長 多分本町だけでは済まないでしょうね。本町と言っても下本町まで含めてやるのか。さらに、最近脇道にどんどんお店が出てきていて、若い店主も出てきている。城下町の回遊性を考える上でも、本町通りだけというわけにはいなくなると、駅前の発展会との関係も含めて、どうしていくか色んな議論が出てくるので、そこはできるだけ早めに課題を出してもらえるようにするといいいかな。ちなみに、TMOは今まで誘致した店舗の相互コミュニケーションとかネットワークづくりをしてこなかったのですか。

事務局 定期的に、誘致した店舗、場所をお貸ししている店舗の方に集まっていたら、情報交換とか連絡はやられているそうですが、頻度が減ってきているという話もありますし、店子以外のお店とはあまり関わりがないということなので、そこもまた課題かなと思います。他にもまちづくり団体で、犬山北まちづくり推進協議会などがあって、非常にソフト面での活動もやられているのですが、全体として、TMOと北まち協議会と、城下町を守る会とか、それぞれの団体同士の繋がりとか整理というの、はつきりされていない状況で、個々にご活躍されているという状況です。

服部部会長 本来TMOなんかがそういう事務局になって、全体の整理をしていく。TMOは単にテナント貸しの会社ではなく、マネジメントする会社だから、本当はそういう機能があるはずなのだけど、少し特化してきているところもありますね。他地域だったらTMOがそういう機能を持っているところもあるので、今後の推進体制の事務局という意味でも、観光協会なのか、TMOなのか、新しい組織なのか。その辺の役割分担と、体制づくりというところに、早めに課題が出て、繋げていただけるようにしていただければ良いかなと思います。

あと、分科会2の方の歩行者優先道路というのは本町のことですか。

事務局 そうです。毎年春と秋のキャンペーンに本町の交差点から、山田五平餅の丁字路までを歩行者優先道路として、その期間中は、日曜日の午後4時間やらせていただいています。それに対して、課題等もやはりありますので、そちらの課題に対してどのように取り組んでいくのかという実施の体制を話し合います。

服部部会長 これは後ろ向きの話ですか。それとも更に拡大するという話ですか。

事務局 またご報告させていただくのですが、期間について拡大の予定はありません。基本的には現状までです。

服部部会長 両方議論があっていいと思います。今のままでいいのか、たまにしかやらないからおかしいのではないのかみたいな話だってあり得るよね。いわゆる交通規制とか、どこかで車からしっかり降ろして、町の中は歩きで回遊させるとか。静謐性を保つためにも車を入れないとか。それは土日を含めてそうだと。そういう議論だって十分あり得るはずですよ。だから、議論のたがをあまり嵌めずに。もちろん、観光公害問題としてこの話を扱うというのものもあるだろうけど、両面あるので、片面だけにならないようにした方がいいのではないのかと思います。その他よろしいですか。

奥村委員 歩行者優先道路の説明会を、毎年住民にしていますけど、この分科会がそれに該当するものなのでしょうか。

事務局 そうなります。例年やっていたものを今回こういった形に変えてやっていくという話です。

奥村委員 TMOが仕切ってやっていたものですね。最初に始めた時、会頭がイコール社長をやっていたので現場にいましたけど、えらい反対が多かったもので今はその辺どうかと思ったのです。

事務局 昨年やった感触では、住民の方は、あまり歩行者天国自体を歓迎していないという方が結構多いなというふうに思えます。

奥村委員 まだ変わっていませんね。

事務局 実際今、土曜日はやっていなくて、日曜日の午後だけという形なのです。もともとはにぎわい創出とか安全性の確保という話で始め、現状は土曜日もたくさん人がいるけど歩行者天国ではない。日曜日は同じように人がいて歩行者天国。日曜日だけやっているというのは、何となく不自然というか、なぜ土曜日はないのだというような状況にもなっていて、これからどう方向性を決めていくのか非常に苦慮するところだと思っています。昔は土日やっていたのですが、住民の方から少し減らして欲しいという縮小傾向の意見が強いものですから土曜日が無くなって、今は日曜日だけになっています。

服部部会長 その住民というのは本町住民ですか。

事務局 中本町です。

服部部会長 中本町住民とそれ以外の住民の意識もまた違うはずです。中本町住民は車の侵入が規制されるので、不便だねと言うと思いますけど、それ以外の住民は必ずしもそうではなくて、しっかり規制してくれないと困ったことになりますよと言う人もいるはずなので、意見の幅が小さくならないようにしてほしいです。単に規制の対象住民に対する意見出しみたいな話ではなくて、多分これから議論していくときに、すごく大きな問題になってきて、町並み整備と、その静謐性とブランド形成という意味で、あそこの町や通りの環境をどうするかというのは、規制等のあり方と関係してくるので、単に住民対策みたいな話だけではないはずです。交通問題もあるので、あそこがイレギュラーに規制をかけるために、本町通りの交差点で曲がっていく車がよく間違えて事故を起こすという問題も含めて。曲がりかけて今日は規制、規制じゃないと事故を起こしているんで、ああいうことも含めていろんなルール作りをしっかりとやらないといけないですね。

事務局 ありがとうございます。

服部部会長 その他よろしいでしょうか。
結構時間がかかってしまいました。次の議題に入りたいと思います。今年度いろんな調査をしまして、その調査結果が大体まとまってきましたので、その概要をご説明いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

事務局	(資料に沿って説明)
服部部会長	<p>ありがとうございます。親会議で説明される時は、結局この資料2の最初の3ページを使って説明しますよね。だから、今回この3ページに、この調査した結果として、必要な視点でまとめられているかどうかを確認していただいて、こういう形で親会議の方に報告していいかどうか、という観点からも意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>私の方から最初の3ページの内容と言うよりは、プレゼンの仕方として、ぎゅっと詰まりすぎている感じがして、もう少し引き伸ばしてというか、グラフを少し挟みながら、例えば、年代別傾向と居住地別傾向がどうこうと、5つか6つのカテゴリーになっていますよね。5つか6つぐらいのカテゴリーそれぞれで2、3ページとかちよっと余裕をもって見やすくして、グラフとかそういうのが入っていないとわかりにくいものは少し入れて、まとめる形にした方が頭に入りやすいかなと思います。後ろの方の資料を説明している余裕はないでしょうから、これで完結して、きっちりとプレゼンするためには、文章だけで整理されたものでは中々きついと思いますので、少しまとめ方を工夫された方がいいかなと思いました。</p>
事務局	ありがとうございます。
服部部会長	その他いかがでしょうか。
奥村委員	今3ページまでのところで、今後の導き出される犬山の姿ということで、今後の方向性を書いたのが、この赤字ですよね。
服部部会長	そのようですね。
奥村委員	まず2ページですけど、各年齢層で書いてあります、30代、40代、50代、これ数字からいってみえると思いますけど、職業柄現場にずっと週末いることが多いです。現地を見ていると、50代、60代の女性グループが多いというのが目に付きます。そのグループがいろんなところに行かれて、若い方が食べているものを注文して食べてみたりとか、年齢層が高い店も中にはありますからそこに入られたり。そういうこともかなり目立つと思うのですが、ここにはなかったですから、今、50代、60代の女性のグループが目立ちますから、高額なものも買われていると思ったもので、入れたらどうかと思いました。
服部部会長	数値として上がるかどうかですね。その辺の人たちは目立ちますからね。
事務局	今言った現場のご意見も参考にもう一度、データの方を読み直して、そうい

うのが出るかどうか確認させてください。

服部部会長 数として多いわけでもなく、行動として目立ったり、顕著な行動を示したりというところで、目に付く可能性もあると思います。

奥村委員 いろんなことを聞かれたり、聞いてくる方はそういった方々ですね。

服部部会長 行動力が高いですからね。大きな声を出していたり、綺麗に着飾っていたり、いろんな形で目立ちやすいところがあると思います。

奥村委員 少なくともそういった方もおられると思ったのと、4ページの赤字のところになるのですが、右の欄で3つ目の四角いマークで、高齢者と若い方で2種類確かにあります。ターゲット設定を明確にしたプロモーションが有効と書いてあるのですが、ターゲットは別に無くていいかなと思っています。そういうのは店で個々にありますので、両方ともでいいような気がしました。基本的に両方のところにそれぞれの方が入られたり、年配の高齢者の男性の方も、お孫さんとか連れ歩いたりしていますので、絞らなくてもいいかなと思いました。

服部部会長 はい。他いかがでしょうか。

片山委員 10ページ、来訪者意向調査の中で、宿泊地 Q7 という表があるのですが、これは泊まった人は、名古屋で 39.4%ということを示していて、犬山は 20.7%しか泊まっていないと意味しているのですよね。

事務局 犬山でこのアンケートをとって、宿泊を伴う旅行だよと回答していただいた方の中で、どこに泊まれたのかと理解していただければ。

片山委員 まあある意味、2割も泊まっていたという数少ない中で、いい結果かなと思うのですが、上の黄色いところの 16.5%と 20.7%の違いはなんですか。

事務局 上の 16.5%が誤りです。申し訳ありません。

片山委員 駅前のホテルとかインディゴが出来てくると、この 20.7%がさらに増えてくるのではないかというところですね。正直言って、犬山ホテルが無くなってしまって、名古屋に頼らざるを得ないという状況があったかと、これ多分犬山ホテルの後の話ですよ。

事務局	はい。
片山委員	わかりました。以上です。
榑山委員	この調査の中では、なかなか出てこない外国人に対するコメントというのが、このサマリーの中では、何かないのかなど。調査しようがないというのはあるのかもしれないけど。
事務局	すみません。痛いところにご質問をいただきましたが、残念ながら今回の調査の中で、外国人の意向というのは把握できていないです。今後の課題かなと思っております。
服部部会長	全く出てこないのはおかしくて、前整理したのがありましたよね。今回の調査ではないけれど、官公庁系のデータは示していましたよね。
事務局	資料3の、88ページ以降のところになりますけど、こちらは中部運輸局に調査データを提供していただきまして、犬山市に特化して見た場合どうなるかがわかるところを拾ったものになります。なので、どういう動きをしているかというのは、こちらでわかると思っております。ですが、ニーズとしてどうなのだとか、そういったところは今回、把握ができていませんが、動きとしてはこれでフォローできるかと思います。
服部部会長	調査結果としてあるので、外国人のインバウンドについて全くコメントがないというのはおかしいので、今回の調査には対象になっていないし、現れてきてないけど、こういう調査というか、情報整理をして、こういう傾向を掴んでいますとか。ここに現れてない話で前にありましたけど、名古屋に来ているビジネス客をこっちに連れて来ているという形で、まさにインセンティブ旅行みたいな形で、利用されているという情報は掴んでいますよね。そういう情報も含めて、こういう把握をしているので、この後のインバウンドのまとめにはこう繋がっていますという整理がないとインバウンドの部分だけ全くデータなしに出てきているみたいな話になるのでそれはおかしいですよ。
事務局	我々が今回調査した部分だけで今少し説明させていただきましたので、先ほどの中部運輸局のものを踏まえて、そちらも含めた形で、また報告できるようにしたいと思います。
榑山委員	やっぱりこれはもうピンポイントで、特定の人に対する問いかけですけども、統計データみたいなのは、前段としてないと少し説得力がないかなど。こういう仮説でこういう結果、それに対するどういうデータがあるのかというこ

とになると思うのですけれど、それがあつた方がこの資料に説得力が出てくるかなという気はします。

事務局

ありがとうございます。

服部部会長

だから今年やったオリジナル調査の結果もいざしらず、それも含めた、今年度の調査全体として、統計データのベースになっているものも含めて、どういう傾向を掴んだのかという形でまとめないと、親会議に出す資料としては少し不十分ですよ。そこはよろしくをお願いします。

片山委員

インバウンドの話をもつ補足するならば、犬山城の観光統計を取らせていただいています。参考までに言わせてもらうと、5年前の犬山城の外国人の登閣者が、1万1000人でしたが、令和元年の入城者数は3万6000人ということで、3倍ぐらい外国人が増えているということも、何かに記してもらえるといいかなと思います。

服部部会長

よろしくをお願いします。他よろしいですか。

さっき改めて説明していただいた11ページの追加の部分というのは、前の2ページから4ページのどこに反映されていますか。11ページの資料は結構有効な資料だと思います。結構面白いデータで、名古屋宿泊者と犬山宿泊者の属性の違いって、結構大きな違いが出ていますよね。それは、せっかく来ているのに名古屋に戻ってしまった人たちと、犬山に泊まっている人たちの属性の違いを見ることで、どう引っ張って来られるのかがわかるわけで、すごく大きいですよ。犬山は何故か1人客が多いとか、それは多分宿泊施設の傾向としてそうになっているから、1人客が多いのだろうけど、それは一体誰なのだとかね。ビジネス系なのか、1人で来て泊まっている人ってなんなのかですよ。あと、やはり夫婦、カップルとか、そういう方が泊まれない、高齢者が落ち着いて泊まれないとかっていうのは、今の犬山の宿泊施設の傾向というか性格を示していると思うので、犬山の宿泊としての弱点みたいなものが結構現れていますから、そこをしっかりと書いたほうがいいかと思います。

他にいかがでしょうか。またこれは後で戻ってくることもあると思いますので、次の資料を見ていただいてから、必要に応じて、データには戻ってきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。では3つ目の議事ということで戦略の骨子についてご説明をお願ひいたします。

事務局

(資料に沿って説明)

服部部会長

ありがとうございます。資料が幾つかありましたけれども、親会議に出す資料のメイン資料というのは、この資料4ということで、横長の表がメインにな

っているということで認識しております。資料5の方は骨子という形で文章になっているのですが、今の段階では、中は精査してないということなので、表現ぶりを云々するのではなく、あくまでも来年こんなのを作りますよというイメージということで、部会としてはこの資料4の中身をまずメインに精査していければというふうに思いますので、よろしくお願ひいたします。

では、委員の皆様からご意見をいただきたいと思ひます。

梶山委員

梅川委員の最初のご指摘のとおり、確かにコンセプトというか、キャッチコピーという言い方がいいのかどうかかわからないですけども、何がしたいのかというのが一目でわかる何かがないと、何をやりたいたいのかが一目で伝わってこない。中身は色々あるかと思ひますが、ワンワードで住民、事業者、観光客も、みんな犬山はこういうことを考へているんだ、みたいなのが伝わるワードを何か考へて、中々難しいとは思ひますが、その辺はぜひやっていただいた方が良くと思ひます。

服部部会長

少し事務局と議論したときにもその話が出ましたが、それは直ぐには決めきれないので、むしろ来年の議論のかなり大きな議題になるのかなと思ひます。それをやるのだと、議論するんだということ位置づける上では、観光地の目指すべき姿って3つ書いてある左側にキャッチコピーを作るよ、そのキャッチコピーを議論するんだよっていうことを少し明確に表して、来年の議論のメインのテーマの1つですというふうに頭出しをしておいてもいいのかなと思ひます。その他いかがでしょうか。

片山委員

観光まちづくり会議4回というレジュメをいただき、色々行政から住民に対しての要望とか、あと住民事業者からの課題等、すごくまとめていただいているわけですから、特にその部分も含めた、基本的な施策の方向性というのを入れ込んだ方がいいのではないかと。例えば、交通のビジョン、交通体系、城下町の歩行者天国のあるべき姿、一通を逆にするだとか、いろいろな施策があるのだけど、そういうことも入れた方がいいと思ひます。

服部部会長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

奥村委員

これを見てですね、会議所のできる、今後取り組まないといけない事項は多いですね。会議所の方でも中期計画というのを策定に向けて来年度やります。うちの中期計画は9年間で、その中には当然観光のことも出てきます。新しい会頭が今言われているのは、栗栖地域の桃太郎神社の桃というものを、起爆剤にしてやってみてはどうか、ということです。今度のこの観光戦略会議のときにも、それを言おうかなと言っておられました。また、どうしても土産物がないですから、観光客は食べ歩きだけで帰っていきますので、当然この土産物、

名物的なものが手薄いので、会議所の方で重要視して、取り組むという話が出ています。すでにそういったものが中に入っていますが、それを付け加えて書いてもらってもいいかなと思います。

もうひとつ、城下町だけではなく、栗栖地域もそうですけど、いろんな文化財的なものが各地域にありますよね。そこを結ぶには、自転車だという話で、犬山ポタリングクラブってあります。見た目はスポーツ的な感覚ですけど、本来の意味は自転車の散歩ですから、気軽に各観光地を結ぶという意味で、自転車を使っただけの周遊を全面的に考えていくべきということを言われています。

服部部会長

他にいかがでしょう。

私の方からですね、梅川先生のご意見の中に景観の話が出てきていて、確かに空間の話が出てきていないなと思いました。どう空間づくりをしていくのか、空間からさらにインフラという話になっていて、空間インフラの受けというのが、当然観光をやるために必要なんだけど、ちょっとそれを表すような施策の頭出しがないのかな。そして、先ほど出た城下町の交通ももちろんあるし、それから今出てきた観光地間をネットワークするための交通。いわゆる下物のインフラ整備もあるし、その上にくる交通手段としては上物の手段整備とかあるでしょうし、そういうインフラ、交通の話、将来を見据えた時には自動運転、シェアリングなど、今流行りの話も含めて、どう受けていくのかということもあるでしょう。一方で、それぞれ主要な観光地、観光地周りの景観づくりをどう受けていくのか、空間づくりをどう受けていくのか、それは景観計画だけではなくて、それから文化財の保存、活用だけではなくて、都市計画的な誘導も含めて空間のイメージをどう作っていくのかというのがあるはずなので、今、テーマ別に分けているので、そういう総合的な受けみたいところが、今思い返して、若干抜けた形の整理になっているのかなと。多分、観光戦略では書ききれないところもあるのだけど、そこである程度頭出しをしてそれを都市計画マスタープランで受けたり、景観計画で受けたり、それから歴まち計画で受けたり、文化財計画で受けたり、いくつか関連した計画があり、関連計画に繋げていくための、頭出しってどこでやるのだということの整理をしておかないといけないと思いました。それを言うと、個別の話になっちゃうけど、例えば道の駅とか。道の駅も、どこに書いてあるのかなと思って見ていたら、無いなと思ってですね。ちょっと整理をしないとイケないかなというふうに思います。それでは、他にいかがでしょう。

梶山委員

プロトタイプという縦のところでは、基本的にはターゲット別に整理されていると思いますが、少しここの整理の仕方を、ターゲットに対して具体的にはこういうことやりますよということの整理も、あわせて示せるとよいと思いますが、何か、あれもこれもみたいな。どういう整理をした方がすっきりいくのかなと。

服部部会長 書き方ですよね。例えば広域観光のターゲットって、他とは全然違うので、広域観光客、犬山を目的地としてない広域観光客の宿泊をどう呼び込むかっていうターゲットの捉え方があるので、それをどう書くかですよね。MICEも、MICEというターゲット、MICEへ来る人達というターゲットという意味では、ターゲット並びになると思うのですが、書き方として、ターゲットっぽくないというところだと思いますので、少し整理したいですね。

梶山委員 ぱっと見たときに、あれもこれも一度にできるわけがないので、優先順位がある程度ここに表現されるような、まずはこのターゲットをやっていきますというようなことが、会社だとそう思うと思いますが、行政でまとめるとなるとやっぱりこういうことになるのですかね。

服部部会長 難しいと思います。それは、委員の皆さんの感覚も違うだろうし。

事務局 総花的にならないかという話だと思うのですが、計画として書き方はこういうふうになるのかなと思いますが、これからこのアクションプランであるとか、事業を動かす段階で、まずはここを攻めて、ここに予算を付けていこうという話の中で、順番が出てくるのかなというような気がしております。

服部部会長 多分、具体的な施策の書き込みの中で、具体的な説得性のあるものを書けるものと、書けないものが出てきて、結局3年のアクションプランの中に出てくるところって結局どこなんだみたいな感じで、そこから戻って優先順位がついていく可能性がありますよね。逆に言うと、今の段階では、重要な視点というのが落ちていないか、これでも結構絞っているといえば絞っている方で、観光と言えば山ほどターゲットの幅があると思うのですが、その中で、今の犬山の特性から見て、抜けているところ、可能性があるところはとりあえずこのぐらいなのか、そして、目配りとして重要なところを落としていないかというところが、今の段階で重要なかなと思います。他いかがでしょうか。

服部部会長 梅川委員がいないので、梅川委員と議論したつもりで、少し資料7に対してコメントをすると、1つ目の話は先ほどお話がありましたのでキャッチコピーということで、今後の大きな議論になると思います。2つ目、MICEで、Iのインセンティブのところに梅川委員は着目されているのですが、Iだけかという、Mのミーティングも十分あるのかな。例えば犬山ホテルが無くなり、これまでミーティング機能を担っていた箱がかなり減ってしまった中で、そういうバンケットも含めたミーティングの箱っていうのを、確保しなくていいのかどうかというような議論はしていった方がいいと思います。C、Eになってくると、犬山で果たしてどこまでできるのかというのはあると思うのですけ

ど、M、Iのところはちょっと重視していった方が良いかなという気はしています。3番は今コメントしたとおりです。4番や5番のブランド形成とか、この辺誰がやるのか。こういう誘致とかブランド形成とか、多分梅川委員は、そのコントロールをすごく意識されていると思います。事務局にはお話ししたのですが、例えば、最近名古屋都心の話で、話題になっている那古野四間道というところであって、古い民家とか歴史的建造物を改修して、新しい飲食店が入って、かなり人がくるようになった。あの辺りは市原正人さんという、建築家であり、かつ事業者である方が中心になってブランディングをしながら、この人だったらここに根づいて老舗、名物を作ってくれるだろうという人を選別して、さらに店舗設計までしっかりクオリティコントロールをして、町並みを十年かけて形成して今に至っているというのがあります。そういうブランド形成、ブランドコントロールみたいなものを、どの組織がやるのか。組織というのは、本当はかなり属人的な話で、それができる人っていうのを据えないとできないということで、そういうのが犬山でできるのかというようなところも、これから検討していかないといけないのかなと思います。6番、8番、9番は少し個別課題的なものだけれども、どうコーディネートするのかという話になると思いますので、検討ください。7番の民泊は、農泊は書いてあるけど、確かに城下町の民泊は書いてないなというところがあって、ちょっと受け方を考えていただければと思います。9番の現代アートの話は、多分下本町のクリエイティブ人材とかその辺で多分受けているのだと思います。10番、投資経費の話は、総合推進体制のところ、少し検討していくことになると思います。11番、こういうのは、来年の議論として大事なのですが、すごく個別的なものだけれど、多分インバウンドが結構効いてくる施策で、ジャパンレールパスのマップに入れるためには、どういうルートで入れていけばいいのかというようなアドバイスみたいな、こういったことに長けた専門家がいるし、それをリードしてくれる人もいると思うので、来年の議論の中では、こういう戦略にアドバイスをしたり、実際に動いたりできる人をサポーターとして議論の中に入れていかないと、こういうのって大事なけれど実現しないなと思いますね。あと12番の地区別構想みたいなものは、私も入れた方がいいと思いますが、入れるとかなり生々しくなって、段々事務局は怖くなると思うのですが、できれば地区別構想みたいなものは、議論の具体性を出すためには重要だと思うので、できればやって欲しいなと思いますけど、それも来年の議論としてご検討いただければと思います。

その他いかがでしょうか。大体言いたいことは言っていたでしょうか。

奥村委員

入鹿池の人数、年間周遊状況なのですが、これは大体ワカサギを釣りに来た方がメインですか。

事務局 位置情報データの分析のところの話でいきますと、資料 2 の差し替えの 35 ページです。どれだけそこに滞在する人がいるのか、滞在時間を見ているのですけど、入鹿池でいきますと、4 時間を超える数字が一番大きくなっているのですが、これは宿泊施設があそこにもありますので、そこを含めて拾っていると思います。他も見てみますと、2 時間などのところが少し谷になっていて、短い時間と、2 時間以上の方が多いうところになっているので、先ほど奥村委員が言われた、釣りの方というのが 2 時間以上で出てきているのかなと。短い時間の方は本当に立ち寄って、ちょっと景色を見るというような方を拾っているのかなと思います。

奥村委員 入鹿の里 M U S I C A (ムジカ) の宿泊の方も拾っているということか。

事務局 はい。M U S I C A の宿泊の方も入っております。

奥村委員 世界かんがい遺産になっていて、ここも何とかして観光地としてっていう話もよく出てくるもので。資料にも入鹿池ってありますけど、どう今後やっていくのかなと思います。

あと、犬山駅周辺ですけど、これ遊園の方はなかったですか。

事務局 この犬山駅周辺っていうのは、宿泊施設を拾いたかったというところでありまして、駅利用者ではなくて、この役所のすぐ近くのセントラルであったり、シティであったり、ミヤコであったり、あの辺りを範囲の設定としています。その範囲は、資料 3 の 86 ページの真ん中の右側 4 番が、犬山駅周辺となっております。このようなエリア設定をしております。

服部部会長 遊園に行く人はほぼ木曾川河畔で拾っていますよね。

はい。他いかがでしょうか。

靱山委員 資料 6 の環境省が出している 2013 年版は 2013 年のデータなのですか。

事務局 そうです。確かに古いデータではあるので、どう捉えるかというのはあるのですが、この流出、流入を示せる今現在で最新のデータはこれですので、参考につけさせていただいたところであります。

靱山委員 当時から比べたら犬山城の入城者数だって各段に違いますよね。今の現実が分からない中で、流出しているというようなデータがいるものですかね。

服部部会長 リーサスに載っている経済循環のデータは。

事務局	リーサスもこれと同じデータです。
服部部会長	全国的にこれを使っていますね。だから、読むときは差し引いて見ないといけませんね。あくまでも参考にしかありませんが、ベースの傾向としては、この傾向が持ち続けている可能性はありますからね。
朧山委員	本当は現状が分かると一番いいのでしょうかね。
服部部会長	だから、そこはかなり慎重に提示しないとイケないですね。提示するなら断りを付けて提示する。
事務局	あと今の資料6の話でいうと、域内外流出量のデータの最終ページで、産業別に付加価値はどうなのかという資料があります。その地域でどれぐらい稼いでいるかというのがございまして、これも当然お城だとか城下町の店舗数が変わってきていますので、現在の数字とは変わってきていますが、やはり製造業が圧倒的に多くて、国に対して、対個人サービス、小売業というのはまだまだ数字としては小さいなど。これを経年で、3年、5年と追いかけていくことで、例えば観光業というのは、さらに活性化すると、この数字が伸びているというので、一つの目安になってくるかなというところでは、まずはこれを提示したいということだと思います。
服部部会長	他いかがでしょうか。
片山委員	資料4が3月の親会議で議論していくお題目の部分だけですので、資料5みたいなものはどういうふうに今後構築されていきますか。
事務局	先ほど部会長からもお話をいただきましたが、こちらの方は、今後こういう形で戦略として取りまとめていくというイメージを皆さんに持っていただくためにお示しするものです。ですので、こちらの体系整理がきっちり固まれば、こちらはそれに肉付けしていくとか、ブラッシュアップしていくという感じで今作成しています。
服部部会長	来年多分親会議を何回かすると思うのですが、来年の親会議の主な議論はこの戦略をすることですから、その戦略を作る多分最初の骨子という形で出てくる。だからこの資料3は、来年の親会議の最初の資料として作るもののイメージだけ今出てきているということだと思います。その骨子を1回議論してもらって、大体こんな方法で良いよということになれば、それを書き込んだものをもう1回、親会議かけるために部会で揉んで、親会議にかけるというスケジュール感で来年はやっていくと。あとよろしいですか。

今日もまた梅川委員のご意見も含めて、かなりたくさん意見が出ていますので、事務局は大変だと思いますけれども、親会議までの間に整理していただいて、各委員に少し確認しなければいけないところは確認していただきながら、親会議の資料を作っていただいて、3月末の親会議を迎えたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。では事務局にお返しいたします。

事務局

服部部会長ありがとうございました。次第の最後その他でございますが、先ほどもお話がありましたが、次回の専門部会については、3月25日の第2回観光戦略会議での議論を経て、また来年度になると思いますが、開催日の調整をさせていただきたいと思います。よろしくお願ひします。それではこれもちまして、第3回専門部会を閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。